

学生時代を振り返ってみると……

株式会社中国日本電気ソフトウェア 大 国 祐 子

(医学系研究科 平成元年3月修了)



私は昨年の春、中国日本電気ソフトウェア(株)に入社しました。そして、昨年7月から2年間の派遣ということで、今、東京の日本電気に勤務しています。ソフトウェア会社に就職したのだから、当然プログラミングをしてコンピュータと向かい合う毎日なのだろうと思われがちですが、所属は教育部でコンピュータと接することはあまりありません。社員とユーザに言語やOSなどについて講習会で教えたり、その準備で勉強したりの毎日です。

そんな私に「卒業生の声」として何か書くようにと依頼がきました。「適当に何か書けばいいんだな」と軽い気持ちで引き受けたのですが、大学で勉強に励んだとはお世辞にも言えない私が「大学で学んだ事が今こんなに役立っています。」とはとても言えません。それで、これから就職する方々に何か伝えられる事はないかと頭をひねってみましたが、

何も浮かびません。仕方がないので私が就職して感じた事を挙げておきます。

まず一つは、やりたいと思う事は学生時代に何でも挑戦してみるべきだということです。私は大学の頃から、英会話を習ってみたいと思っていたので、昨年10月から12月まで週2日教室に通いました。しかし、時間の関係で予習もできない上に、仕事を終えてからだったので疲れてしまい、結局通うだけになってしまいました。仕事をしながら勉強をするというのは、よほどの情熱を持っていないとなかなかできることではありません。また、社会人になると、自由な時間というのは限られてきます。だから、やりたい事は思いついた時に実行するべきです。作ろうと思えば、いくらでも時間を作る学生時代に何でもやってみるべきだったと今思います。

もう一つは、学生時代にこれだけは一生懸命にやったと言えるものを一つ作っておくべきだということです。専門の勉強でもクラブでも何でもいいと思います。「あの時あれだけやったんだ」という思いは自信につながり、仕事をやっていく上でも励みになります。また、大学時代を精一杯打ち込んだ思い出と一緒に振り返られるのはとても素敵なことです。今、卒業して一年半近く経ちましたが、とても大切な時期だったのだと思い出しています。後で振り返った時に悔いが残らないよう絶えず前向きで、挑戦的であってほしいと思います。